

その知恵を
カタチに!

第3回



知恵ビジネスプランコンテスト 認定プランを決定

本所は、知恵産業の推進を目的に「知恵ビジネスプランコンテスト」を実施しています。
京都の強みを活かした独創性あふれる応募プランの中から、企業価値を高めて顧客創造を図るものを「知恵ビジネスプラン」として認定し、さまざまな支援を行っていきます。

今回は、多数の応募の中から認定されたプランについて、
その知恵の使いどころや活かし方などについて紹介します。

「**違いをデザインし、顧客を創造する**」プランを集中支援

本所では、京都のまちの特性や企業独自の強みや知恵を活用して、新たな付加価値や市場を創造するビジネスを「知恵ビジネス」と名付けています。産業として京都全体に波及し、より多くの中小企業が知恵ビジネスに取り組めるよう誘発するため、第3回知恵ビジネスプランコンテストを実施しました。多種多様な業種から前回を上回る85件の応募があり、独自性や顧客創造、実現性などの観点で書面審査、実地調査、ヒアリング審査を重ね、きらりと光る6件のビジネスプランを認定いたしました。

認定を受けた企業には、本所のコーディネート力やネットワーク力を活かして、経営戦略・マーケティング、資金調達準備・補助金申請、交流・マッチング、広報・PR・モートなどに関するさまざまなハンズオン支援を継続的に行い、プランの実現をめざしていきます。



知恵ビジネスへの
チャレンジャー
募集中

〈お問合せ〉

京都商工会議所 知恵産業推進室 TEL : 075-212-6470 E-mail : chie@kyo.or.jp



直営施工へのこだわりが、施工技術や現場改善の意識向上につながっている。



今回開発した「アステープ」。「火気が不要」「工期とコストの縮減」という画期的な特長をもつ。



特殊な舗装の施工も請け負うなど舗装技術力を培ってきた。

「アステープ」を使った新しいオーバーレイ工法の提案

株式会社石川建設

駐車場や国道、高速道路、駅や空港など、規模の大小にかかわらずさまざまなアスファルト舗装工事を手がけてきた。直営施工にこだわり続けることで、新工法・新機材に対応する技術力を磨き上げ、近年では一般土木工事などへの多角化も進めている。

高度な技術と品質を追求する経営姿勢は、現場改善の意識向上につながった。道路などのアスファルト舗装は数年経つと劣化するため、その表面を補修する工事（オーバーレイ）を行わなければならない。しかし、従来のオーバーレイ工法は現場でアスファルト原液接着剤を加熱して溶かす必要があるため、作業工程が複雑になるうえ、作業中の火災事故や火傷などの危険が伴った。そこで同社は、アスファルト原液接着剤の代わりに、特殊な粘着テープ「アステープ」を開発。一般の両面テープと同じように、貼って剥がすという簡易な作業により、安全で環境に優しく、施工コストの低減を実現した。「火気対策」ではなく、従来のアスファルト舗装の常識を覆す「火気を扱わない」という斬新な発想が、今回のコンテストにおいて高く評価されたといえる。

今、公共工事の減少などにより、市場を取り巻く環境は必ずしも良好ではない。しかし、新しいオーバーレイ工法のメリットが理解されれば、火気の使用が難しかった工場敷地内の補修など、さまざまな新規用途の開拓に結びついていくだろう。

すでにいくつかの建設会社や資材会社から問い合わせが舞い込むなど、社会的な関心も高まっている。人にも環境にも優しい新技術で、斯界での地歩固めを狙う。

龍谷大学 教授 佐藤 研司

審査委員長の目

アスファルト補修というニッチなマーケットだが、他社にない独自の発想・技術として評価できる。施主に対してこの施工方法の優位性をどう理解してもらうのか、また、施工実績をどう積み上げていくのか、今後解決すべき課題といえよう。解決すべき課題を具体的に整理し、優先順位をつけて着実に実行していくことが求められる。

企業情報

代表者 石川 英明
所在地 京都市伏見区深草小久保町 303
TEL 075-641-2384
URL <http://www.ishikawakensetsu.jp/>
事業内容 舗装工事業、土木工事業

地域とのつながりを大切にしたい 「獣害防止ネット」の開発

近江屋ロープ株式会社



獣害防止ネット、名付けて「イノシッシ」。設置場所を選ばず、土地の形状に応じて利用可能。



地域住民が主体的に設置することで、地域の絆の醸成にもつなげる。



自設可能な造りだが、さまざまな害獣の侵入を効果的に防ぐ。



文化年間（1805年）創業以来、長い歴史の中で「ためまぬ自己形成と社会への奉仕」を経営理念に掲げ、伝統的なロープや各種産業用資材・農林機械の販売を通して、顧客や取引先、従業員との「絆」を大切にする企業文化を育んできた。こうした社内のバックグラウンドから、今回のビジネスプランが生み出された。

近年、里山の減少などにより、野生動物が田や畑に侵入して農作物を荒らす獣害が増えつつある。生産者にとって切実な問題だが、現在のところ被害を防ぐ有効な手だてがなく、農村地域の生産力の低下や過疎化の一因になっている。こうした社会問題の解決を目指し、同社では金網や特殊繊維、電気柵を用途に応じて組み合わせた獣害防止ネットを開発。被害が大きい猪や鹿をはじめ、これまで対応が難しかった猿の侵入を防止する。

この獣害防止ネットの特徴は、持ち運びや組み立てが容易で、場所を選ばず自設が可能であるということ。工事業者の施工ではなく、住民が主体となつて設置することにより、「自分たちで地域社会を守る！」という自助意識の醸成につながる。今後、同社では設置後の破損や事故対応などアフターフォローを充実させ、地域の獣害対策を継続的にバックアップしていく。自社で養った絆を大切にする精神を生かし、コミュニティの再生と農林産業の活性化を促す。

農村地域の獣害だけでなく、山間地域の雪害対策や観光地区の鳥獣害対策など、未開拓分野で需要拡大のチャンスが広がっている。社会貢献度の高いソーシャルビジネスの一つのモデルとして、これからの展開に期待が高まる。

龍谷大学 教授 佐藤 研司

審査委員長の目

長い歴史を持つ老舗企業が、自社の優れた経営資源であるベテラン従業員と、これまで培ってきた市場との信頼関係に着目し、その接点に獣害防止ネットという今回の商品があると思われる。加えて、獣害に悩む地域との連携というソーシャルな側面も持ってあり、これまででない新たな取り組みとして注目される。営利・非営利と区分けされてきた事業分野だけに、今後の施策展開の方策について十分な検討が求められる。

企業情報

代表者 野々内 達雄
所在地 京都市下京区七条通西洞院東入夷之町 689
TEL 075-361-2301
URL <http://www.ohmirope.co.jp/>
事業内容 網製造業、その他金属製品製造業



単なる便利な移動手段の枠を越え、趣味や生きがいなど人生の豊かさを提供する「お出かけケアタクシー」。



同社はベッド to ベッドによる移動と介護の一体サービス「ケア&ケアタクシー」を全国で初めて展開。



若手社員による発表や社内新聞。彼らが同社の原動力の一つとなっている。

高齢者・障がい者の「生き甲斐移動」サポート 「お出かけケアタクシー」

株式会社キャビック

同社は、「移動」と「介護」を融合させた全国初の介護タクシーサービス「ケア&ケアタクシー」や、介護が必要な人のもとにヘルパーやケアドライバーが24時間対応で駆けつける夜間訪問サービスなど、タクシー事業とグループホームなど介護事業の一体運営に取り組んできた。現在、全乗務員の半数以上が2級ホームヘルパーの資格を有するなど、福祉介護に対する社内の意識も高まりつつある。

今回のコンテストでは、タクシー事業と介護事業で培った経営資源を生かし、新しい外出サポートプランを提案した。これまで、高齢者や要介護者、障がい者の通院や買い物をサポートするサービスはあっても、趣味や生きがいなどを後押しするような取り組みはなかった。「旅行に行きたい!」「映画や歌舞伎を楽しみたい!」「こうした潜在ニーズを掘り起こし、「生活に不可欠な移動」だけでなく、「人生を豊かにするお出かけ」をベッドtoベッドでサポートする。

同社では、新卒社員を中心に「Team Next」を編成。入社後3年間で「移動」「介護」「環境」をテーマにさまざまな社内部門をジョブローテーションさせ、その経験と斬新な感性で新たな企画を次々と生み出している。社内で体験ツアーを試行し、本プランのブラッシュアップやマーケティングを図るなど、すでに始動している。今後は、ツアー会社やレジャー施設などとの連携を図り、より質の高いサービスを提供していく予定だ。

高齢者人口はますます増加していくことが予想される。今まで無理とあきらめていた「生き甲斐移動」を現実のものへと変えるプランで、新たな顧客の創造が望めるに違いない。

龍谷大学 教授 佐藤 研司

審査委員長の目

タクシー事業と介護事業という独特の事業展開からノウハウを積み上げてきた同社らしいプランである。非営利事業、しかも、小規模な取り組みであれば実現の可能性は高くなると思われるが、一定の規模で継続的に行うとなると、提供するサービスの質や事業採算を含めて解決すべき課題がある。ソーシャルなビジネスは社会からの期待が大きい分、企業としての責任も重く、着実な積み上げが期待される。

企業情報

代表者 兼元 秀和
所在地 京都市右京区梅津段町8
TEL 075-864-2122
URL <http://www.cabik.co.jp/>
事業内容 一般乗用旅客自動車運送事業、介護事業など

「エコ窓」の開発と ウインドウ・コンシエールジュ・サービスの展開

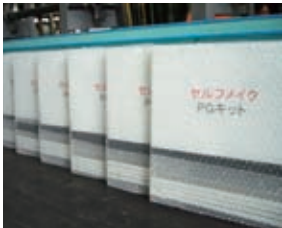
サン・ウインドトーヨー住器株式会社



対面やセミナーなどを通じて顧客の「窓まわり」の悩み事を解決する「ウインドウ・コンシエールジュ」。



取り付けが簡単な二重窓や窓枠の補強部材などを組み合わせて、断熱化や結露対策を提案。



出荷を待つ「エコ窓」。節電・省エネの高まりから、窓による断熱化へのニーズが高まりつつある。

現在、「窓のリフォーム」をしようとした場合、メーカーの商品だけでは窓枠の寸法が足りないなど、住宅事情により全面でさまざまな問題が発生している。しかし、メーカーの種類を問わず「窓まわり」の相談を専門的に受け付けてくれるところは今までなかった。

同社は大手メーカー商品の販売で実績を重ねるとともに、メーカーで対応できないニーズに応える商品を独自開発するなど、窓まわりについてのノウハウを蓄積してきた。これまでに、ユーザーサイドで二重窓の取り付けが簡単にできる「セルフメイクペアガラス」、窓枠部分の強度と安全性を高める「窓枠下枠補強部材」などを「エコ窓」シリーズとして実用化。デモ機を使った体感型の営業スタイルで、その魅力を発信している。

今回のプランでは、窓まわりのさまざまな困り事や悩み事をワンストップで解決するサービスが認定された。一人ひとりの顧客に一流ホテルのコンシエールジュのように寄り添い、オリジナル商品とメーカー商品を組み合わせた提案を行うことで、家の断熱化や結露対策、防音対策など、快適な省エネライフスタイルを実現していく。今、リフォーム・リニューアルの市場は伸び続けている。住環境ニーズに対応した同社の取り組みは、一般消費者向けだけでなく、オフィスや工場、施設など、すそ野の広い潜在的なニーズを取り込めるだろう。単なる販売業から脱却し、窓まわりの総合サービス業へと事業転換すること、自社の価値を高め、企業としての発展の可能性を追求していく。

龍谷大学 教授 佐藤 研司

審査委員長の目

省エネ志向の強まり、環境への配慮など、事業環境は期待を持てる状況にある。事業に対する社長の強い思いが全ての原動力となっており、今後、継続的な事業展開を考えるならば、組織的な対応力の整備が必要となる。今回の認定を契機に、自社の経営資源(経営を支える強み)の再確認と、その資源を生かした経営戦略の検討を進める中で、企業としての基盤強化に努めてもらいたい。

企業情報

代表者 高橋 秀直
所在地 宇治市槇島町中川原 52
TEL 0774-51-1400
URL <http://www.sun-wind.jp/>
事業内容 硝子、サッシ販売業



装置メーカーと連携し、グローバル展開も視野に入れる。



プリント基板の搬送装置で培ったノウハウが今回のプランに生かされた。



プリント基板の検査に欠かせない「確認機」。同社製は高機能でオペレーターにも優しい。



「プリント基板欠陥箇所確認機」の開発による 新規顧客開拓

株式会社 TIKUSON

プリント基板はパソコンや家電製品、また最近ではスマートフォンなどにも組み込まれ、ますます高度化・小型化しつつある。同社は創業以来、「プリント基板搬送装置業界ナンバーワン」企業を目指して、吸着パッドによる「接触式搬送技術」や、空気を応用したサイクロンパッドによる「非接触式搬送技術」などを独自に開発。プリント基板製造工程の省力化やクリーン化に貢献してきた。

今回のコンテストで認定された「プリント基板欠陥箇所確認機」は、これまで培ってきた搬送技術と、京都の企業とのコラボレーションで研究してきた画像処理技術等を融合して生まれたもの。プリント基板の製造工程においては、基板の欠陥箇所を迅速に検査・確認することが求められるが、最近ではより高精度・高速な処理の実現とオペレーターの負担をいかに軽減するかが課題となっている。現場の声に耳を傾け、「使いやすい」「扱いやすさ」をとことん追求することで、高精度・高倍率でカメラの揺れも少なく、プリント基板の欠陥箇所をクリアにスムーズに検出できる確認機の開発に結びつけた。同社の装置が普及することで、プリント基板のさらなる高品質化・高性能化が期待され、ハイテク市場はますます賑わいを増していくだろう。今後は、国内向けだけでなく、装置メーカーとの幅広い連携で世界市場への進出を視野に入れる。京都発のニッチ技術がグローバル・スタンダードになる日も、そう遠くないかもしれない。

龍谷大学 教授 佐藤 研司

審査委員長の目

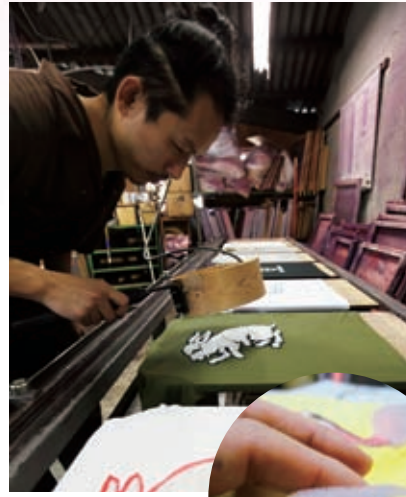
優れた独自技術を持っており、その強みを生かした市場戦略も明確である。しかし、同社の技術だけで製品が完結するわけではなく、他の装置メーカーとの連携が重要なキーとなることをふまえ、どのような分野の、どのような連携が最も自社の強みを生かすことにつながるのかを考慮する必要がある。

企業情報

代表者 竹村 一鷹
所在地 京都市南区上鳥羽北花名町 33
TEL 075-693-3557
URL <http://www.tikuson.co.jp/>
事業内容 機械製造業

ふんわり柔らか オリジナルフロッキー技法を活かしたブランド展開

株式会社 ティーヘッド



同社独自の加工技術が、独特の質感を持つフロッキー加工を可能にする。



「フロッキー」とは、ナイロンやレーヨンなどの短繊維を高圧静電気力で素材に植え込む加工方法のことを指す。電車やバスのシート、ぬいぐるみなど、工業製品を中心に身近なところで多く使用されている。同社は、このフロッキー加工をさらに改良・進化させ、独自の発想と技術で、長毛・極細の繊維（パイル）でも倒れないように植え込むオリジナル技法を開発した。従来のゴワゴワとした手触りとは異なり、ふんわり柔らかな風合いが特色で、植え込むパイルの長さや太さ、色使いを工夫することにより、「グラデーション加工」「多色加工」「透かし加工」など、バラエティ豊かな表現が可能になる。



デザインが多様で、加工する生地を選ばないフロッキー加工の用途範囲は広い。



若者に好評のオリジナルブランドを百貨店や直売イベントで展開。

今回のプランでは、オリジナル・フロッキー技法による今後の市場開拓、顧客創造に期待が寄せられた。これまで同社は、オリジナルブランド「Be anxious (ビーアンキシヤス)」を百貨店などに展開。100種類を超えるユニークで斬新なデザインは、若者を中心にユーザーから高い評価を得ている。今まで蓄積してきた「デザイン力」と「技術力」の強みを掛け合わせることで、衣料品はもちろん、靴や鞆、帽子、リボンなどさまざまな分野の商品展開が期待できる。限定的だったフロッキー加工の用途範囲は大きく広がっていくだろう。また、「フロッキー・アーティスト」としての期待が高まっており、異分野のデザイナーや国内外の高級アパレルとのコラボレーションなどグローバル化への夢は膨らむ。これまでにない新しい「美」の世界の創造で、明日のファッション界をリードしていく。

龍谷大学 教授 佐藤 研司

審査委員長の目

独自のフロッキー技法に加え、社長のデザイナーとしての才能も優れたものがある。社長の個人的スキルに頼るのではなく、「素材のノウハウをもつデザイナー」という強みを最大限に発揮できる経営環境の整備が必要と思われる。今回の認証を契機として、企業としての事業戦略を策定し、計画的、継続的な事業発展を期待したい。

企業情報

代表者 吉田 貴志
所在地 京都市南区久世築山町 479-2
TEL 075-922-0890
URL <http://beanxious.com/>
事業内容 直植毛フロッキー加工、シルクスクリーン捺染加工